
慶應義塾大学SFC（湘南藤沢キャンパス） 「地域おこし研究員」 説明会

2022年1月28日



慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 社会イノベータコース



SFCと地域連携による「地方創生推進プログラム」

地域おこし研究員

「地域おこし研究員」は、多様な主体との協働を実現し、高度なマネジメント能力をもって社会の問題解決を目指すプロフェッショナル（＝社会イノベータ）を育成する慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科「社会イノベータコース」が、全国各地の地域と連携して推進するプログラムです。

慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス（SFC）と全国の自治体・企業・団体等が連携し、地域の現場での実践的な研究開発を行う大学院生等を「地域おこし研究員」として任用し、遠隔と対面での研究指導・支援を通じて、地方創生の実学の推進と人材育成に取り組みます。

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 社会イノベータコース

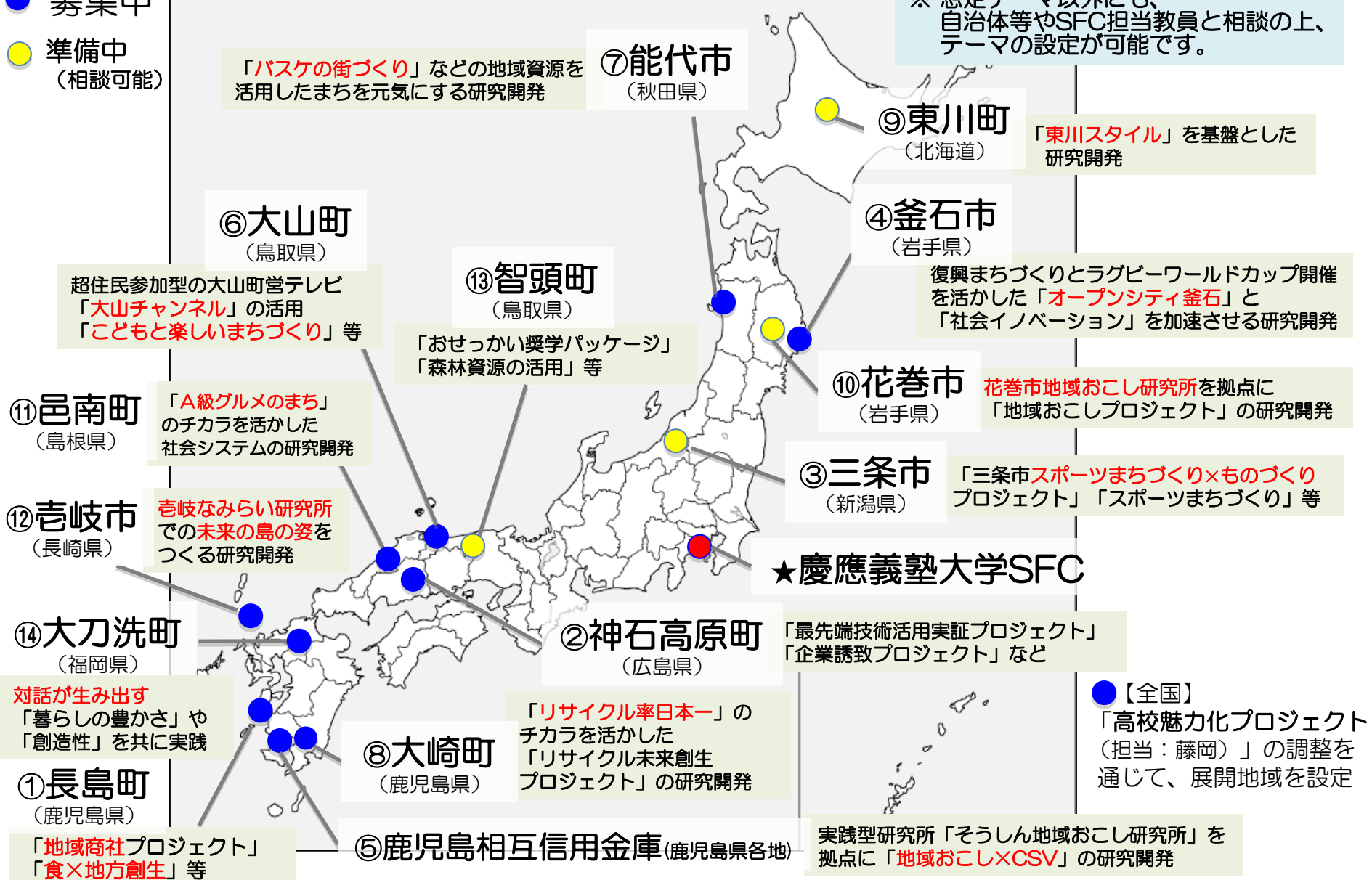


「地域おこし研究員」を任用・任命する連携自治体・組織

3

- 募集中
- 準備中
(相談可能)

※ 想定テーマ以外にも、自治体等やSFC担当教員と相談の上、テーマの設定が可能です。



「地域おこし研究員」説明会

1. 慶應義塾大学SFCの特色
2. 大学院政策・メディア研究科について
3. 「社会イノベータコース（SIコース）」について
4. 「地域おこし研究員」の制度・任用について
5. 「地域おこし研究員」の研究テーマ
6. 「地域おこし研究員」を任用・任命する連携自治体・組織

質疑応答

- 問題発見・問題解決
- 実学の推進
- 理論 × 実践の相乗効果の追求
- 大学院政策・メディア研究科
＝ 総合政策学部 × 環境情報学部
- 現場起点での多様な分野の組み合わせ
- グローバル × ローカル
- 教員 × 学生のパートナーシップによる研究推進



<https://youtu.be/UjKSSbGaw34>

「アカデミックなプロフェッショナルスクール」

- **実践を重要視**する P.B.L. (Project Based Learning)
- **専門領域が融合**するインテグレートッド・ディシプリン
- **プロフェッショナル育成**コース
- **自分で研究テーマを創り出す**プロポーザル・トレーニング
- **世界に通用する人材**を育成するグローバル・キャンパス
- 「森基金」など充実した**研究助成**制度

<参考>

アドミッションポリシー
カリキュラムポリシー
ディプロマポリシー

社会の問題解決を目指す、多様な主体との協働を実現し、 効果的なインセンティブ設計のできる 高度なマネジメント能力をもった人材（＝社会イノベータ）の育成

様々な場面において、**行政にも企業にも対処が難しい社会課題が顕在化**し、人間のwell beingを向上させる、持続可能であり、**実効性の高い社会システムの設計や実践モデルの構築**が喫緊の課題となっています。

しかし、このような社会課題の解決には「個益（＝個人や特定の組織の利益）」と「公益」が相反するものと捉えるアプローチでは隘路にはまってしまう。

そこで、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科では、社会イノベータを「**事業センスと公益センスを兼ね備え、持続性のある、かつ、生産性の高い社会を実現する人**」と定義し、多様な主体との協働を実現し、効果的なインセンティブ設計のできる高度なマネジメント能力をもった人材を育成する**プロフェッショナル育成コース**として「社会イノベータコース」を設置しています。

[社会イノベータコース紹介Video](#)

4. 「地域おこし研究員」の制度・任用について

「地域おこし研究員」は、全国各地の地域とSFC（社会イノベータコース、社会イノベーション・ラボ）が連携して推進するプログラムです。

地域の現場での実践的な研究開発を行うSFCの大学院生や大学院進学希望者等を、SFCと連携する自治体・組織が「地域おこし研究員」として任用します。SFCからの遠隔と対面での研究指導・支援を通じて地方創生の実学を推進します。現地に居住して徹底的に研究開発ができます。「地域おこし研究員」は、SFCの担当教員からの助言や、自治体・組織との調整のもと、地域に新機軸を実現するテーマを設定して活動します。地域が抱える課題を、多様な主体の協働や連携を実現することで、共に解決することを目指します。

「地域おこし研究員」7つのポイント

1

全国の自治体・組織にて、報償費等が支払われる立場で任用されます

5

SFC宿泊施設や各地の拠点等で、全国で活動する研究員が集まる定期ミーティングを開催します

2

大学院入学と同時に「地域おこし研究員」として活動することが可能です

6

遠隔ミーティングで、地域にしながら指導・支援を受けることが可能です

3

地域における実践的な研究活動に従事することが可能です

7

「慶應義塾大学SFC サテライト拠点」を連携地域に設置します

4

SFC「社会イノベータコース」にて、指導・支援を受けながら活動することが可能です

- 慶應SFC、長島町（鹿児島県）神石高原町（広島県）三条市（新潟県）釜石市（岩手県）鹿児島相互信用金庫（鹿児島県）大山町（鳥取県）能代市（秋田県）大崎町（鹿児島県）東川町（北海道）花巻市（岩手県）邑南町（島根県）壱岐市（長崎県）智頭町（鳥取県）大刀洗町（福岡県）などが共同で提唱・推進。
- 慶應SFCと連携する自治体・組織にて、協働体制を構築。
 - SFCとの調整のもと、連携する自治体・組織にて総務省「**地域おこし協力隊**」（例:報償費280万円/年・活動費200万円/年、最長3年間）の制度や、**自治体・組織の独自制度・職員派遣制度等**を活用し、受け入れと協働体制を準備。
（※ 自治体によって、報償費等や任用方法などは異なります）
 - **地域の現場で実践的な研究活動を行うSFCの大学院生・進学希望者等**を対象に**自治体・組織の選考**により任用。※**大学院合否と協力隊等の任用は連動しません**。
 - 地域おこし協力隊の制度を利用する場合、自治体が設定する条件のもとで、自治体が任用。※ 例：当該地域への在住、1年以上3年以内の活動従事など
 - 修士課程(2年間)修了後などにも、地域おこし協力隊等の任期(例：3年間)が残っている場合、継続することが可能。※ 自治体の制度によります
 - 自治体の判断と制度のもと、地域おこし協力隊の**起業支援制度等**を提供する地域もあります。※ 例：年100万円までを、協力隊3年目や任期終了翌年に利用可能など
 - 「**大学での立場(大学院生)**」と「**地域での立場(地域おこし協力隊/地域おこし研究員等)**」の2つの立場を持つことになります。※ それぞれの立場になるための合格・任用が必要です。
- ※ 制度の設計・運用は、より効果的な活動が出来るよう、慶應SFCの担当教員と自治体・組織との調整を行います。

- 慶應SFCは、大学院政策・メディア研究科 社会イノベータコースにて指導・支援体制を構築します。
 - 「地域おこし研究員」は、社会イノベータコース指定の科目にて、**対面・遠隔・集中等の研究指導・支援**を受けながら、現場での実践的な研究活動を行います。
 - 条件を満たした場合、修士号に加えて**サティフィケート(コース修了証)「社会イノベータ」**を授与します。
- 地域おこし研究員は、その活動費を用いて、**慶應SFCや都心サテライト等での研究ミーティングや授業等に定期的に参加**するものとします。
 - 全国各地で活動する地域おこし研究員が、SFCや連携地点などに月1回程度集合し、研究ミーティングを開催します。（参考：[SFC未来創造塾](#)）
 - 大学の四学期制度を用いて、**1年春学期前半にSFCでの集中学習**や、指定授業の遠隔受講、**インターネットを介した遠隔ミーティング**（大学院プロジェクトへの参加）、個別の助言・指導などを通じて、**各自のプロジェクトを構築・推進**します。
 - Web会議システム等を用いて、グループワークでの授業課題などにも取り組むことができます。
- 自治体等では、**遠隔ミーティングや実践活動の拠点となる協働スペース**を整備します（地域の特性やテーマによって異なります）。

5-1. 「地域おこし研究員」の研究テーマ

- 地域おこし研究員は、慶應義塾大学SFCの教員からの助言や、自治体・企業・団体との調整のもと、**地域に新機軸を実現するテーマを自ら設定**して研究実践に取り組みます。
- 自治体ごとに期待されるテーマや直面している課題などを示すこと、個別相談などを通じて、**効果的なテーマを設定することも支援**します。
- 研究テーマ設定のポイント：3つの相乗効果が成果をもたらす
 - ①**社会**に求められる研究
 - ②**自分**にとって意味がある研究
 - ③いま**実践**できる研究
- 研究テーマの例

5-2. 「地域おこし研究員」の紹介(1)大学院修了者



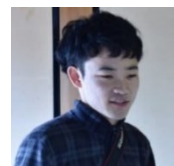
貫洞 聖彦

大学院政策・メディア研究科修士課程修了
神石高原町 地域おこし研究員
(2017/10-2019/3)



太田 良冠

大学院政策・メディア研究科修士課程修了
長島町 地域おこし研究員
(2017/10-2019/9)



松浦 生

大学院政策・メディア研究科修士課程修了
大山町 地域おこし研究員
(2019/4-2021/3)



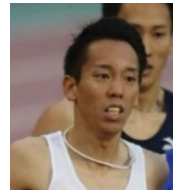
吉田 真彦

花巻市役所 地域おこし研究所
大学院政策・メディア研究科修士課程修了
(2019/4-2021/3)



高橋 誠

花巻市役所 地域おこし研究所
大学院政策・メディア研究科修士課程修了
(2019/4-2021/3)



野村 直己

大学院政策・メディア研究科修士課程修了
三条市 地域おこし研究員
(2017/10-2019/3)



本永 謙介

「そうしん地域おこし研究所」研究員
大学院政策・メディア研究科修士課程修了
(2018/4-2020/3)



中川 優芽

大学院政策・メディア研究科修士課程修了
釜石市 地域おこし研究員
(2018/5-2020/3)



駒井 恵太

大学院政策・メディア研究科修士課程修了
大崎町 地域おこし研究員
(2019/4-2021/3)



宮下 功大

大崎町役場
大学院政策・メディア研究科修士課程修了
(2019/4-2021/3)



<https://si.sfc.keio.ac.jp/si-researcher/researcher/>

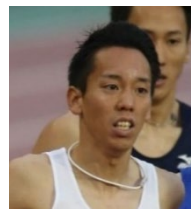


貫洞 聖彦

大学院政策・メディア研究科修士課程修了
神石高原町 地域おこし研究員
(2017/10-2019/3)

中山間地域の県立高校における コミュニティ型ドローンスクールの設計と実装

人口減少が著しい中山間地域において、今後の地域を担う人材として期待されている町内唯一の高校（油木高校）において、ドローンを学び合うコミュニティを形成とそうした活動が普段の学習や地域愛着、地域貢献意識にどのような効果をもたらすか検証した。



野村 直己

大学院政策・メディア研究科修士課程修了
三条市 地域おこし研究員
(2017/10-2019/3)

トップアスリートが継続的に指導することによる 小学生の運動有能感の変化

三条市では、スポーツ環境において指導者不足が深刻であることを受け、トップアスリート（研究者やパラスポーツアスリート等）が継続的に指導することによる子どもたちのスポーツに対する意識の変化について研究



太田 良冠

大学院政策・メディア研究科修士課程修了
長島町 地域おこし研究員
(2017/10-2019/9)

料理人による 自発的協力型販促モデルの設計と実装

条件不利地域において、料理人が食材の生産者と情報交換をしながら生産現場を訪れるツアーを企画実施。その過程において、料理人-生産者とのやり取りによって、「自発的協力」がどのように生まれ、それが双方にとってどのような効果や変化を生み出したのか検証し、持続的な料理人-生産者の関係づくりについて考察した



本永 謙介

「そうしん地域おこし研究所」研究員
大学院政策・メディア研究科修士課程修了
(2018/4-2020/3)

協同組織金融機関による地方創生プログラムの 評価フレームワークの研究と開発

地域型協同組織金融機関（信用金庫）が「相互扶助」の視点から地方創生に取り組む商品やサービスを提供する場合において、その目的に沿っているか評価、モニタリングを可能とする評価フレームワークを開発。



平 紀和

大学院政策・メディア研究科修士課程
三条市 地域おこし研究員
(2018/4-)

新潟県三条市「大学野球サマーリーグ」がもつ 人材育成力

大学野球の次世代育成を目的に作られた「大学サマーリーグ」に参加、且つ企画・運営を担う学生を対象に、その変容プロセスを検証することで、大学スポーツ界における、新人戦の効果について検証する。



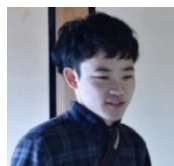
中川 優芽

大学院政策・メディア研究科修士課程修了
釜石市 地域おこし研究員
(2018/4-2020/3)

命を守る下校時避難訓練の構築

東日本大震災の教訓を踏まえた防災教育の試み

東日本大震災で全生徒の生存率99.8%の実績を持つ釜石市内の小中学校で長らく実施されてきた「下校時避難訓練」について避難までの行動や記述等を分析した上で、今後大地震が予想される静岡県内の小中学校での適応可能な避難訓練のモデルを構築・実装



松浦 生

大学院政策・メディア研究科修士課程修了
大山町 地域おこし研究員
(2019/4-2021/3)

過疎地域で域外大学生による地域の一員としての活動を促す「週末住人モデル」の構築



吉田 真彦

花巻市役所 地域おこし研究所
大学院政策・メディア研究科修士課程修了
(2019/4-2021/3)

集落の民俗芸能における集落外の演者を確保する「通い神楽モデル」の構築—花巻市大償神楽における集落主導の活動モデルの設計と実装—



高橋 誠

花巻市役所 地域おこし研究所
大学院政策・メディア研究科修士課程修了
(2019/4-2021/3)

地域コミュニティにおける自発的協力関係を促す趣味サークル活動プロセスの研究



駒井 恵太

大学院政策・メディア研究科修士課程修了
大崎町 地域おこし研究員
(2019/4-2021/3)

産地における料理家共創型販促モデルの設計と実装



宮下 功大

大崎町役場
大学院政策・メディア研究科修士課程修了
(2019/4-2021/3)

コミュニティ型リサイクルシステムにおける住民組織と行政アプローチの研究



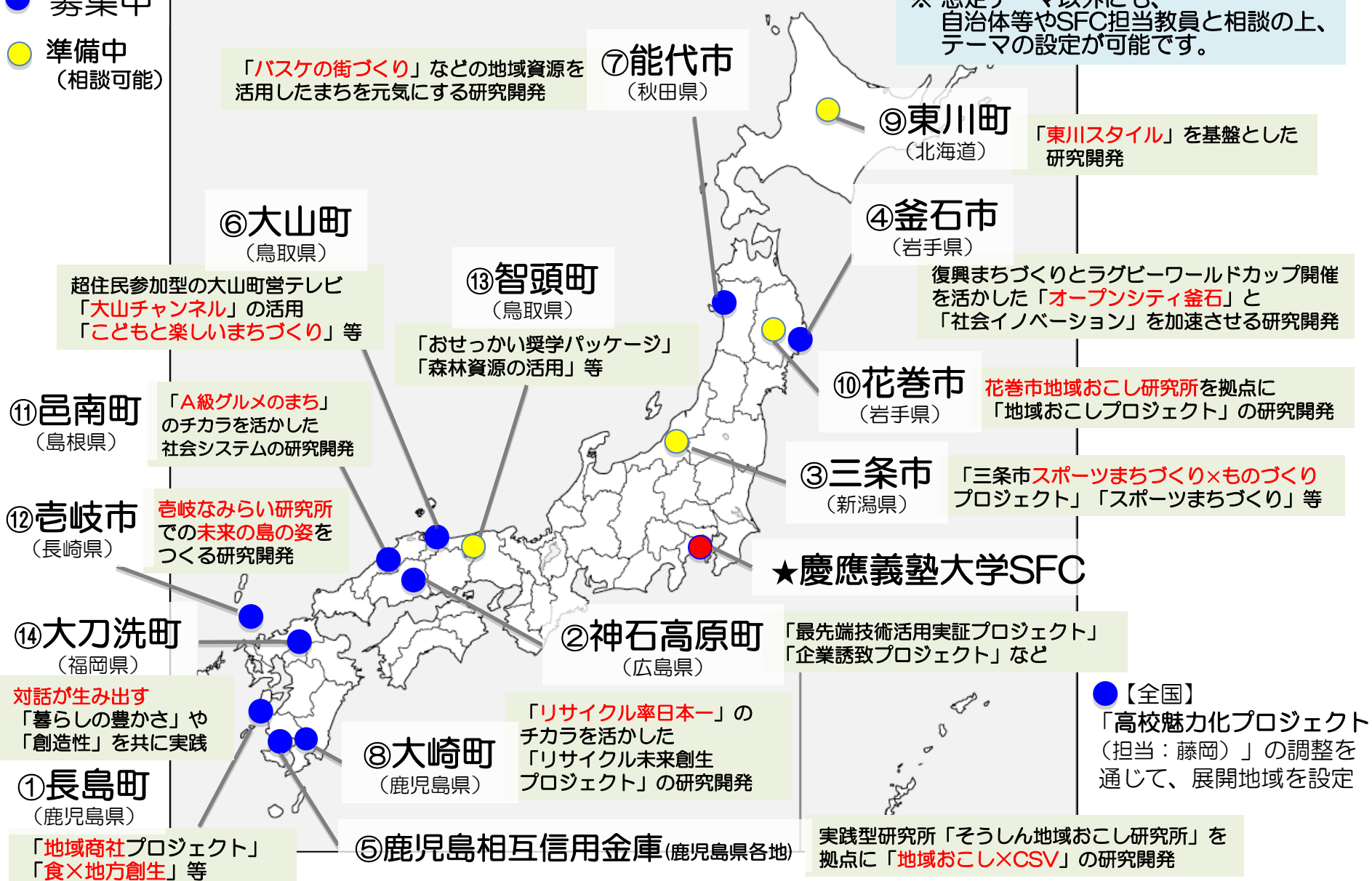
伊藤 薫

大学院政策・メディア研究科修士課程
邑南町 地域おこし研究員
(2020/4-)

廃線をきっかけとする域外人材と地域住民の協働による地域づくり活動の継続プロセス

- 募集中
- 準備中
(相談可能)

※ 想定テーマ以外にも、自治体等やSFC担当教員と相談の上、テーマの設定が可能です。



① 長島町（鹿児島県）における「地域おこし研究員」

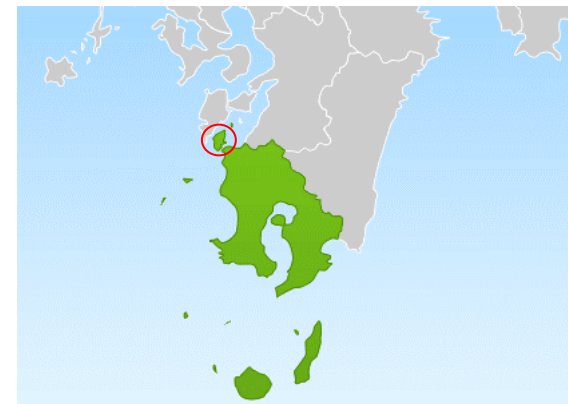
■長島町について

長島町は、鹿児島県の最北端に位置する島で、九州本土とは異なる気候や自然環境の中で独自の文化・歴史が育まれてきました。古来、海洋交通の要で、遣唐使船やオランダ船も到来。海・山・大地の恵みを生かし、食糧及び自然エネルギーの自給率が100%を超えます。

特に、日本三代急潮で育った鰯の養殖は世界一。「鰯王」は、日本で初めてE UのH A C C Pを取得し、世界29カ国に輸出しています。キャッチコピーは「長島大陸」。穏やかな気候で育った住民の笑顔と大陸を愛する気持ちが一番の魅力です。



鹿児島県 長島町



■「学び・教えあう環境づくり」を通じた地方創生の実践

- 日本最大の食の教育機関「辻調理師専門学校」との連携：全国で初めて連携をし、各種の教育や交流プログラムを共同推進
- 長島大陸食べる通信：地域協働で調査や取材を行い、長島の特性ある食材を同封する冊子を発行
- 長島大陸Nセンター：カドカワ株式会社の運営する通信制高校「N高等学校」と連携する拠点を全国ではじめて設置・運営
- 島TECH：高校生が長島町で民泊しながら、生産者のWEBサイトを構築する教育プログラム
- 獅子島の子落とし塾：離島の落ち着いた環境の中で、都会の大学生が地元の中学生に勉強のやり方を伝えることや、将来のキャリアデザインをともに考える“教えない学校”
- 役場公認サークル「長島みかん大学」「できるまで帰れません」：都会の大学生が長島町に住み込み、課題発見からその解決に挑戦



② 神石高原町（広島県）における「地域おこし研究員」

■神石高原町について

神石高原町は、広島県の東部、標高500～700mの高原地形に位置し、北は東城町、南は福山市、東は岡山県、西は府中市、総領町と接しています。平地の少ない神石では、山間の傾斜地につくられた棚田がところどころに見受けられます。

「高原」としての豊かな土壌・澄んだ空気、水といった、良い作物が育つための条件を満たした神石高原町には、トマトやぶどうなどの青果、キノコ、全国各地で評価の高い広島県産神石牛といった素材から加工食品まで、多くの産品がつくられています。豊かな地形や自然環境を活かした観光や森林セラピー、ツーリズムも行われています。



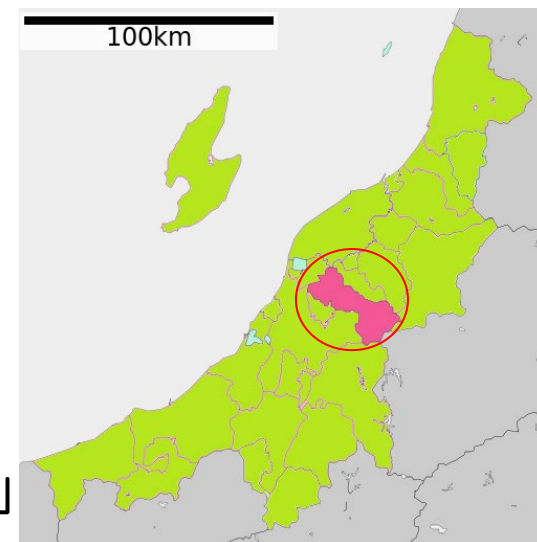
- 「最先端技術活用実証プロジェクト」「企業誘致プロジェクト」などの研究開発に従事する「地域おこし研究員」を募集します！



③ 三条市（新潟県）における「地域おこし研究員」

■ 三条市について

三条市は、新潟県のほぼ中央に位置し、北西部は日本一の大河・信濃川の沖積平野となっているほか、清流・五十嵐川が横断しています。また、下田地域の東部、福島県境までの国有林一帯は越後三山只見国定公園、奥早出栗守門県立自然公園に指定されており、豊かな森林資源に恵まれるとともに、流れ出る豊富な水は近隣市町村の水源にもなっています。産業では、包丁や工具などの金物工業が盛んで、人口比で日本一社長の割合が多いまちとしても知られています。県内の中小企業はそれぞれ異なった得意技術を持っており、相互に連携し地域経済の活性化を進めています。



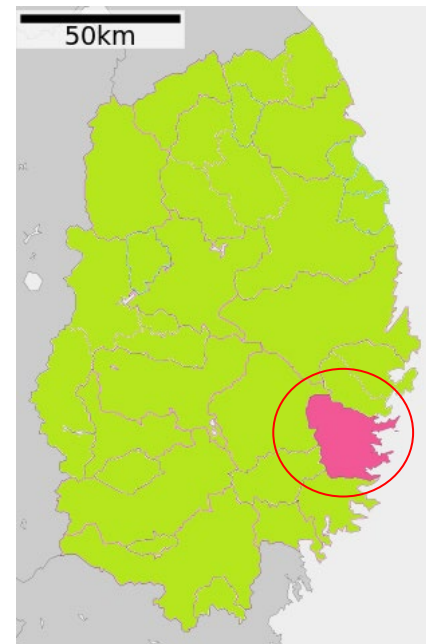
- 「**三条市スポーツまちづくり×ものづくりプロジェクト**」
など「スポーツまちづくり」をテーマに、
地域での実学に挑戦する「地域おこし研究員」が活動してきました



④ 釜石市（岩手県）における「地域おこし研究員」

■ 釜石市について

釜石市は、岩手県の南東部、三陸復興国立公園の中心に位置し、世界三大漁場の一つ北西太平洋漁場の一角をなす三陸漁場と典型的なりアス式海岸を持つ市です。また近代製鉄業発祥の地であり、古くから鉄と魚の町として栄えてきました。また、北の鉄人と呼ばれ、V7を達成した新日鉄釜石ラグビー部は、現在は官民共同運営（任意団体組織）の地域密着型クラブチーム「釜石シーウェイブスRFC（ラグビーフットボールクラブ）」として、東北のスポーツ振興と普及に貢献し、地域に根付いたクラブ作りを目標として活動しています。2019年に日本で行われるラグビーワールドカップの開催都市のひとつに決定し、ワールドカップを見据えたインバウンド向け産業等のまちづくりが進められています。



- 釜石市の復興まちづくりとラグビーワールドカップ開催を活かした「オープンシティ釜石」と「社会イノベーション」を加速させる研究開発に挑戦する「地域おこし研究員」を募集します！



中川さんの研究活動の紹介
(提供：岩手めんこいテレビ、2018/12)

⑤ 鹿児島相互信用金庫における「地域おこし研究員」



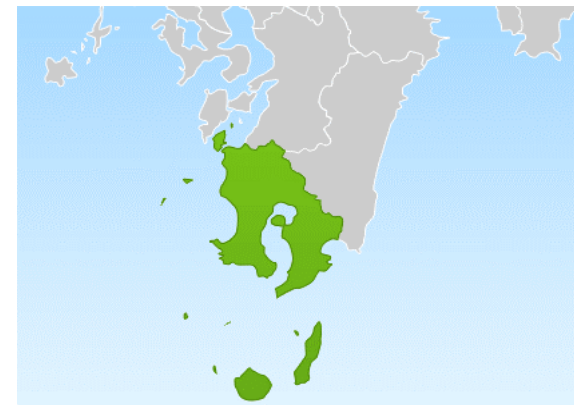
■鹿児島相互信用金庫「そうしん地域おこし研究所」

「そうしん地域おこし研究所」は、信用金庫（信金）らしい、地域と一体となった地域活性化への先進的な取組みを研究・開発し、実際に地域で実践することで、地域・企業・信金が相乗効果を発揮して発展する、実学の研究を行います。

研究所が目指すテーマとして、「地域と共創する『CSV経営』の追求」を掲げています。CSV（Creating Shared Value：共有価値の創造）とは、「経済価値を創造しながら、社会ニーズに対応することで、社会価値を創造する」という発想で、経営戦略として実施するものです。

そうしんは、持ち合わせている様々な機能を「プラットフォーム」として地域社会に提供し、「地域の困りごと」に対して、地域の多様な主体とともに挑戦していきます。

そして、地域・企業・信金がともに、持続的な価値を共創し続ける仕組みを実現する「そうしんCSV経営」を追求します。締結した覚書をもとに、そうしんと慶應SFCは、その実践モデルの研究開発に共同で取り組んでいきます。



■かごしまから地域の未来を切り拓く実践型研究所「そうしん地域おこし研究所」を拠点に、鹿児島県の地域にて活動しながら、慶應義塾大学大学院にて、**地域おこしとCSVの研究開発**に取り組む「地域おこし研究員」を募集します！

⑥ 大山町（鳥取県）における「地域おこし研究員」

■ 大山町について

大山町は、鳥取県西部に位置し、中国地方最高峰である大山（だいせん）山頂から日本海に扇状に広がっています。海と山の双方の恵みを受けた肥沃な土壌では、水稲やブロッコリー、白ネギ、二十世紀梨をはじめとした農業や、酪農・和牛・ブロイラー・豚といった畜産が行われています。漁業では、沿岸漁業によりサザエ・ヒラメ・ハマチ・タイ・アジなどのほか、ウニ・板ワカメが特産品としても有名です。また、国立公園大山を中心とした観光資源にも恵まれています。

ここ数年では、若手の有志を中心とした、地域を盛り上げるさまざまな活動が行われており、国内外からクリエイターを招聘して大山町に滞在し地域住民とも交流しながら制作する「アーティスト・イン・レジデンス」や古民家を改装したコミュニティスペースの活用やシェアハウスの運営などをきっかけに、地域内外から人の行き来や移住、定住が進んでいます。



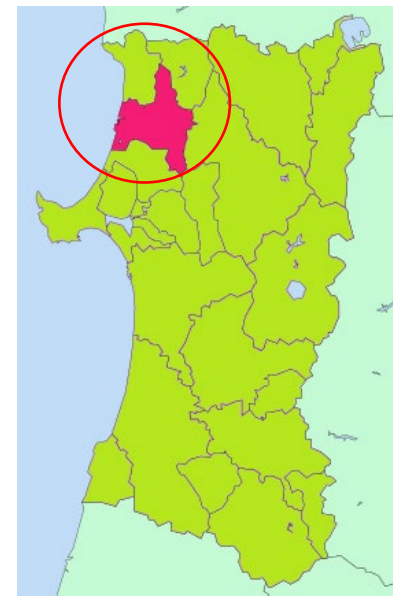
- 超住民参加型の大山町営テレビ「大山チャンネル」など、メディアの特性を活かして、大山町の住民や地域を巻き込むしくみづくりや、地域課題やプロセス共有型の映像制作、「こどもと楽しいまちづくり」などに関わる研究・開発・実践に従事する「地域おこし研究員」を募集します！



⑦ 能代市（秋田県）における「地域おこし研究員」

■ 能代市について

能代市は、秋田県北西部に位置し、世界自然遺産「白神山地」を望み、日本五大松原に数えられる「風の松原」、内陸南部には高さ58メートルの「日本一高い天然秋田杉」を有する、自然に囲まれた地域です。能代市では、全国制覇58回を誇る県立能代工業高校バスケットボール部を有することなどから、“バスケットでみんなが元気になれる街”をめざした「バスケットの街づくり」や、JAXA能代ロケット実験場を有することや、日本最大規模のアマチュアによるロケット打上競技大会「能代宇宙イベント」が開催されることなどから「宇宙のまちづくり」といった、多様な地域資源を活用したまちづくりを推進しています。



- 能代市の「**バスケットの街づくり**」などの地域資源を活用した、まちを元気にする実学に挑戦する「地域おこし研究員」を募集します！

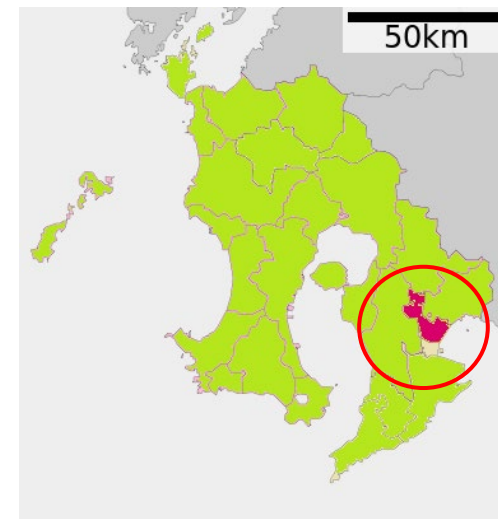


⑧ 大崎町（鹿児島県）における「地域おこし研究員」

■ 大崎町について

大崎町は鹿児島県の東南部、大隅半島に位置し、南部は豊かな水産物をもたらす志布志湾に面し、豊かな農畜産物を育む広大な台地が広がる「食材の宝庫の町」です。

また、プロ野球選手をはじめとする多くのトップアスリートを輩出してきた「スポーツの町」でもあり、国指定の重要文化財である横瀬古墳をはじめとする多くの史跡を有する「歴史の町」、白砂青松100選に選ばれた「くにの松原」を有する「美しい景観を誇る町」といった多種多様な魅力と豊かな資源に恵まれた町でもあります。そして、町民が一体となってリサイクルに取り組む「環境に優しい町」でもあり、資源ごみのリサイクル率で12年連続日本一の栄誉に輝いており、最近ではインドネシアで資源ごみの分別指導も行っています。



■ 大崎町の地域活性化、グローバル戦略、未来戦略や「リサイクル奨学パッケージ」の研究開発・推進・普及に挑戦する地域おこし研究員を募集します！



写真)
https://www.jica.go.jp/publication/pamph/ku57pq00000najg5-att/youth_kyusyu.pdf
<https://www.town.kagoshima-osaki.lg.jp/>

⑩ 花巻市（岩手県）における「地域おこし研究員」

■ 花巻市について

花巻市は岩手県のほぼ中央に位置し、総面積は908.39平方キロメートル。西に奥羽山脈、東には北上高地の山並みが連なる肥沃な北上平野に位置し、季節ごとに変化に富んだ自然風景が広がる美しいまちです。

また、宮沢賢治や萬鉄五郎などの世界的に知られる先人を輩出するとともに、早池峰神楽や鹿踊りなどの郷土芸能、日本三大杜氏のひとつ南部杜氏、さき織り、ホームスパン等の優れた技術が多く伝えられています。さらに、岩手県内唯一の花巻空港があり、東北新幹線新花巻駅や東北自動車道、東北横断自動車道などの高速交通網が整備されるなど、北東北の高速交通網の結節点という極めて恵まれた拠点性を有しています。



■ 花巻市「地域おこし研究所」について

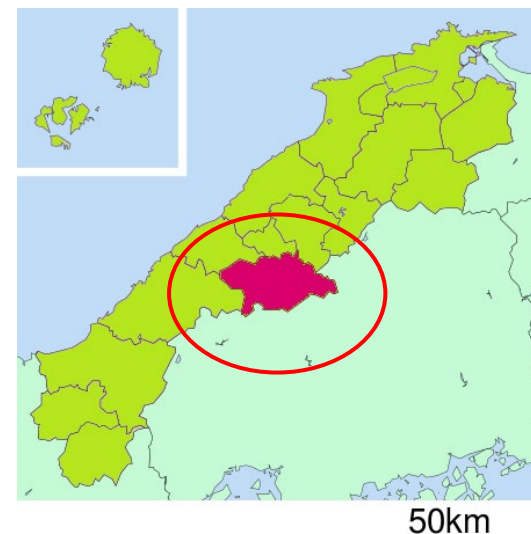
花巻市は、地域課題を解決するための「地域おこしプロジェクト」の開発・実践と、花巻市の未来に資する高度人材の育成を行う「花巻市地域おこし研究所」を設置しました。

市職員を「高度人材」へと育成しながら、**市職員が先導して、地域課題の解決の方法やプロジェクトを考案・実践し、また地域の主体とともに学び続ける**機会と場を創出します。

⑪ 邑南町（島根県）における「地域おこし研究員」

■ 邑南町について

邑南町（おおなんちょう）は、島根県の中部に位置し、農業を基幹産業とする人口11,101人のまちです。年間限定200頭の未經産黒毛和牛「石見和牛」を生産する業者、牛舎を持たない「完全自然放牧」に取り組む酪農家、チョウザメ養殖業者、ピオーネ、さくらんぼ、ブルーベリー農家など小規模ながらも特色のある生産者が点在しています。こうした質の高い食・農業技術を活かした人材育成や起業支援（「食の学校」「稼げる農業を目指す起業家支援」など）などの事業を推進しています。また、子どもたちを安心して産み育てられる環境の整備に重点を置き、子育ての経済的負担を軽減する具体策を「日本一の子育て村構想」と名付け、住み良い町づくりを目指しています。



- 「A級グルメのまち」の実践などを活かした、**地方創生と食と農の産業戦略を推進してきた知見を活かしながら、未来を先導する社会システムの開発と実践**に取り組む「地域おこし研究員」を募集します！

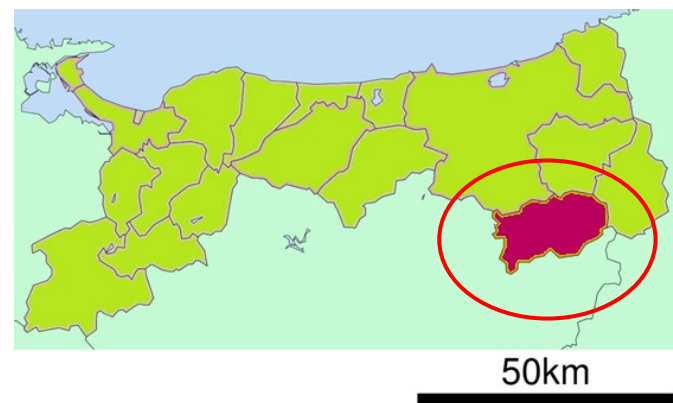
写真) <https://ohnan.com/index.html>



⑫ 智頭町（鳥取県）における「地域おこし研究員」

■ 智頭町について

智頭町は、鳥取県の東南に位置し、南と東は岡山県に接しています。周囲は1,000m級の中国山脈の山々が連なり、その山峡を縫うように流れる川が合流し、千代川となり、日本海に注いでいます。まちの総面積の9割以上が山林で、スギをはじめとする見渡すかぎりの緑が一面に広がります。智頭町は、2019年に「SDG s 未来都市」に選定されました。その背景には、集落（自治会）が住民自治の場として賑わいを取りもどすことによる課題解決を目指して、住民主体の活動を行ってきたことが挙げられます。そしてそこから智頭町を代表するような事業が生まれました（森林セラピー、森のようちえん、山林バンク、林業塾等）。

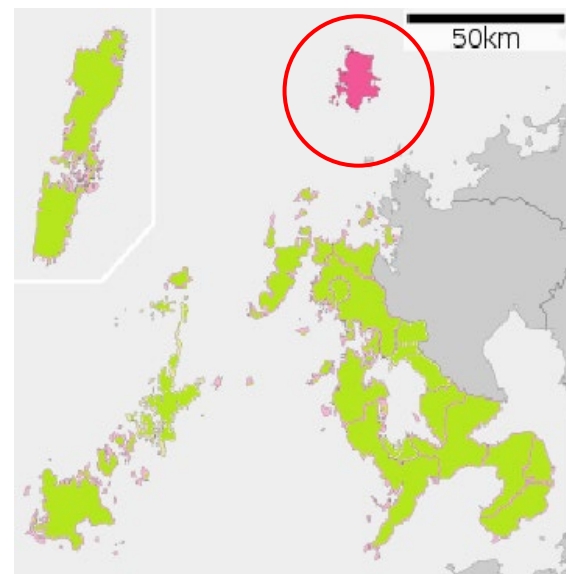


⑬ 壱岐市（長崎県）における「地域おこし研究員」

■ 壱岐市について

九州北部の玄界灘に浮かぶ南北17km、東西15kmの島・壱岐。島内の最高峰「岳ノ辻」は標高約213mで、なだらかな広がりを見せる平坦な島です。九州最大都市福岡から高速船でわずか65分に位置しており、歴史も古く、魏志倭人伝には「一大國（一支國）」と記され、大陸と九州をむすぶ交易、文化の重要な拠点として栄え、平成27年4月に対馬・五島とともに「国境の島～古代からの架け橋」として、日本遺産第1号の認定を受けています。2018年には「SDGs未来都市」および「自治体SDGsモデル事業」に採択されました。その背景には、民間企業と連携しながら地域の老若男女が集まり「対話」をしながら地域の課題や新しい企画についてアイデアの発掘を促す「みらい創り対話会」という取り組みを2015年から行ってきた実績があります。

■ 壱岐市では、対話型の社会課題解決、最新のテクノロジーを活用した6次産業化モデルの構築など、**未来の島の姿を創る「地域おこし研究員」**を募集します！



⑭ 大刀洗町（福岡県）における「地域おこし研究員」

■ 大刀洗町について

福岡県南部に位置している、筑後平野の中にある大刀洗町。

ここには、都会に無いものがたくさんあります。

春には菜の花の黄色、初夏には稲作の準備で水をはった田んぼが鏡のように空を映し、稲が育つにつれて若々しい緑色、収穫の頃には黄金色と、季節の移り変わりに合わせて変化していく広大な田園風景。田園の上には、澄んだ空の青色や夕暮れの淡いグラデーション、夜空に広がる満点の星たち。農の風景とともにある暮らしが、大刀洗にはあります。

昔ながらの人情も残る町で、地域のつながりもあり、おすそわけなんかも日常のこと。朝には子どもたちの通学をボランティアの方々が見守り、休日には同じ趣味の仲間が集まったり、お互いに支えあい楽しみながら穏やかな日々を過ごしています。

■ 大刀洗町では、「**対話のまちづくり**」に取り組んでいます。
対話が生み出す「暮らしの豊かさ」や「創造性」を共に実践
できる「地域おこし研究員」を募集します！



町の人口・世帯数	
人口	15,865人
世帯数	5,934世帯
令和3年12月末現在	



ルーム1 鹿児島（長島町・大崎町・鹿児島相互信用金庫）

ルーム2 東北（釜石市・能代市・花巻市）

ルーム3 中国（大山町・邑南町・神石高原町）

ルーム4 九州北部（壱岐市・大刀洗町）

※ ルーム5, 6 予備